

第1回いじめ問題対策連絡協議会で得られた主な意見

これからの検討内容

協議テーマ①「高知家いじめ予防等プログラム」

いじめ問題についての基本的な考え方について

- ・教員がいじめの定義について再確認する必要がある。
- ・生徒の困り感に気づき、早期対応することが大事。
- ・生徒が自分たちで問題を解決する力をつけることも重要な視点。
- ・本人が心身の苦痛を感じていなくてもいじめと認知する必要のあるケースもある。

【資料2-2】  
「高知家いじめ予防等プログラム」作成の流れ

プログラムの活用について

- ・文部科学省も事例集は作っている。学校現場で字引代わりに使ってもらえるような事例集となればよい。
- ・地域や子どもの実態に応じた事例を短時間で検討する学校文化が大事。
- ・プログラムを実施することで、具体的行動につながるようなプログラムにする必要がある。

【資料2-3】  
「高知家いじめ予防等プログラム」の構成及び実施者からの意見等の収集(2回目時点)

プログラムの構成、内容について

- ・保護者や地域の方にも分かりやすくなるよう、「①いじめに気づくためのチェックリスト」と、「②いじめに気づいたときのチームでの対処」の2つに分けて構成するとよい。
- ・いじめ問題への対応で陥りやすい点は、コラムにして記載してはどうか。
- ・いじめの構造は四層と説明されてきたが、いじめに関与していない五層目がある。この第五層にも働きかける必要がある。

【資料2-4】  
「高知家いじめ予防等プログラム」第3章いじめ予防等に向けた学習プログラム

【資料2-5】  
自己肯定感育成プログラム(鳴門教育大学の「予防教育プログラム」)